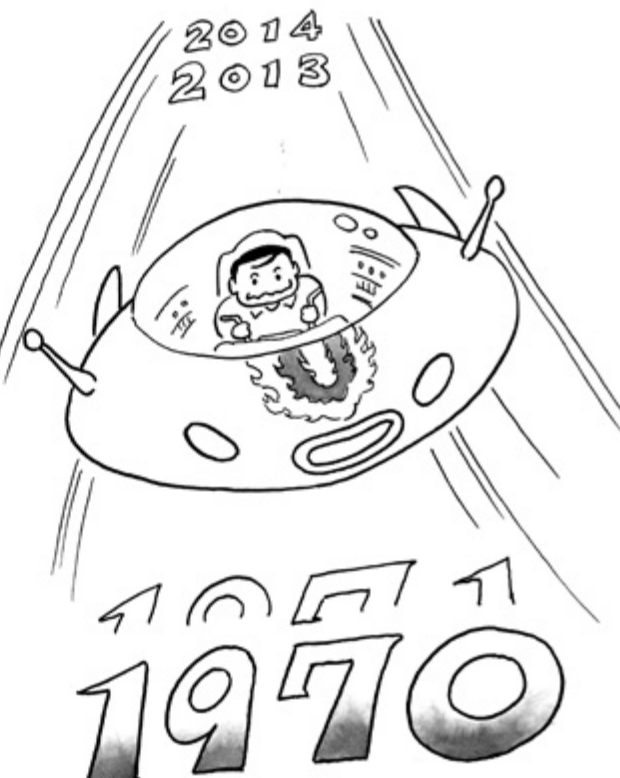
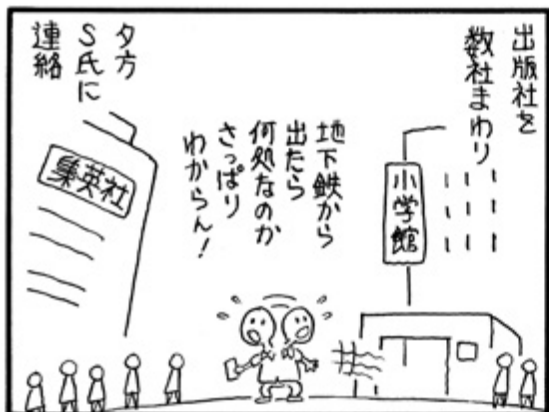


リアル ドキ!ワ!荘



福田 達雄の東京さ行くだ



帰 広



初マンガ家



サイン大事にします

作者： 福田 達雄 （62）

少年ジャンプの1970年37号にはじめてのギャグ漫画『どかたの大將』が佳作で掲載され、前号の36号におだ辰夫氏の『ときゅめんたりい足』が掲載されていました。

作品『五月雨,』は、当時おだ氏が広島に来た時に聞いた出版社の話や手塚治虫氏の読み物等で漫画家ってのは自分の表現が全ては受け入れられず、書き直しや締め切りに追われきつい世界だなどという印象を受けそれをもとに描いたように記憶しています。

このアトくらいでしょうかギャグ漫画を一本だけかかえて文通していた新宅善光さん（広島県）を頼りに上京し出版社を回ったのです。

今はどうなのか当時はアポなしでも作品を見てもらえました。

でもこの上京は漫画家になるためではなく作品を生で評価を受け自分の将来性を確認するためのものでした。

いま思うと2泊3日くらいで『東京見物かよ！』って言われそうですが。

漫画を描くことは別の理由で二十歳前半でやめましたが、当時漫画家になるかどうかについては青柳裕介氏（高知県）のように故郷で描くのもありではなんて考えてもいました。なぜかアシスタントになろうなんて気は全くなかったので知識も経験もない未成年が一人で東京でやっていけないことは自分が一番よくわかってましたから。

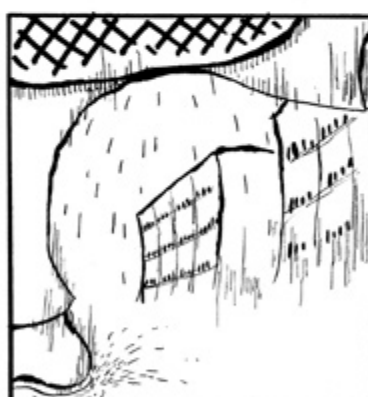
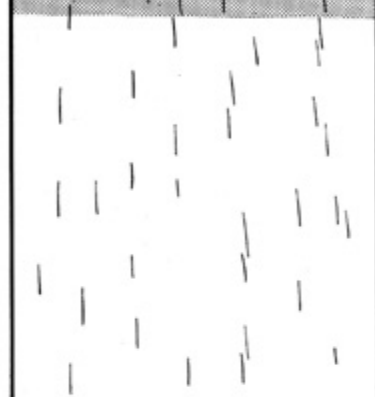
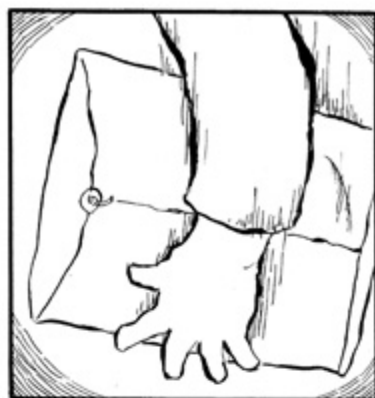
漫画家を目指し上京しアルバイトとかアシスタントしながら描いてたらそれなりにまた違う人生だったろうなどは考えますが、両親を介護し見送れた今ではこれでよかったなと納得しています。（長男なもんで）

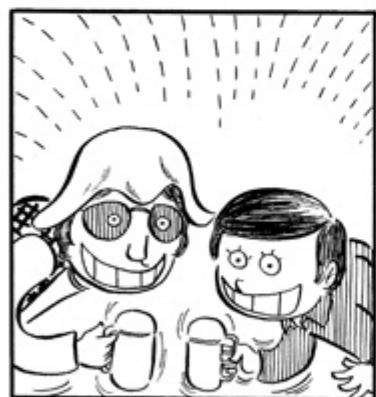
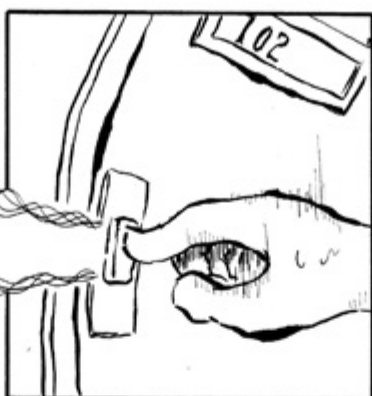
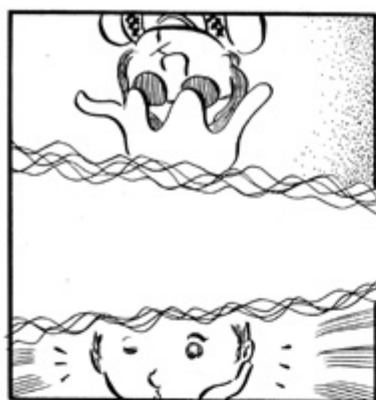
2014. 9. 16

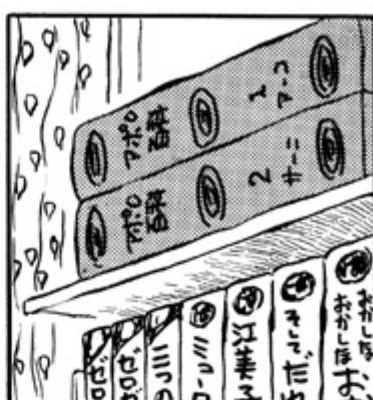
SREASE "MAN"
ACT-II
RESISTANCE
1970.MAY.15
FURUDA-TATUO

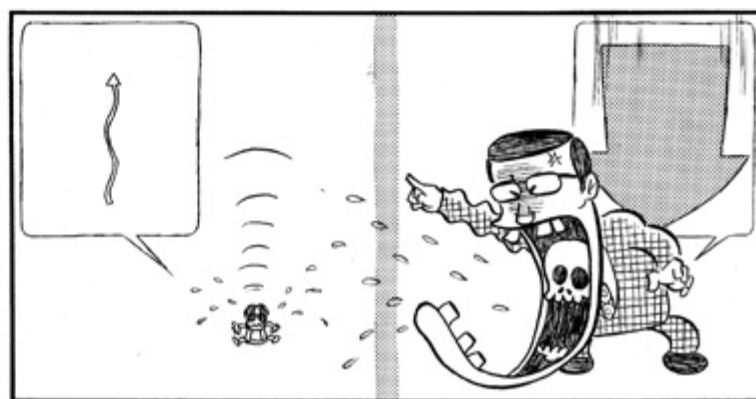
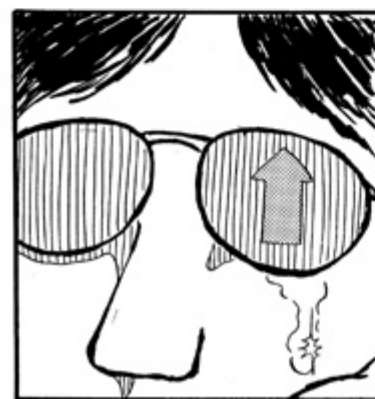
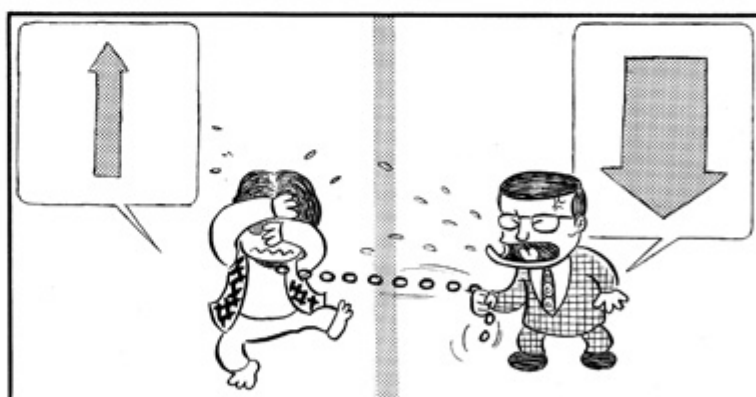
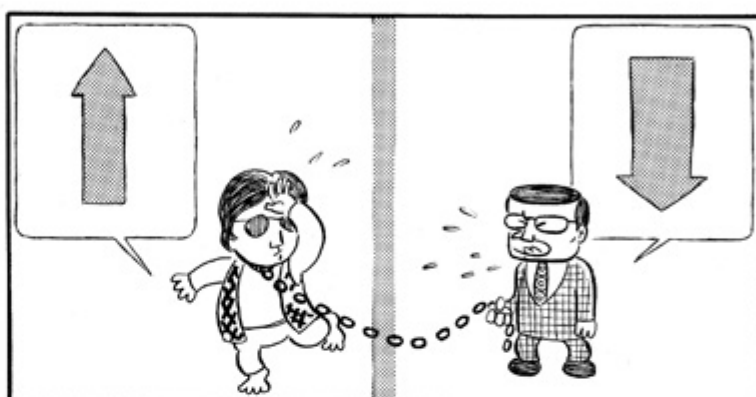
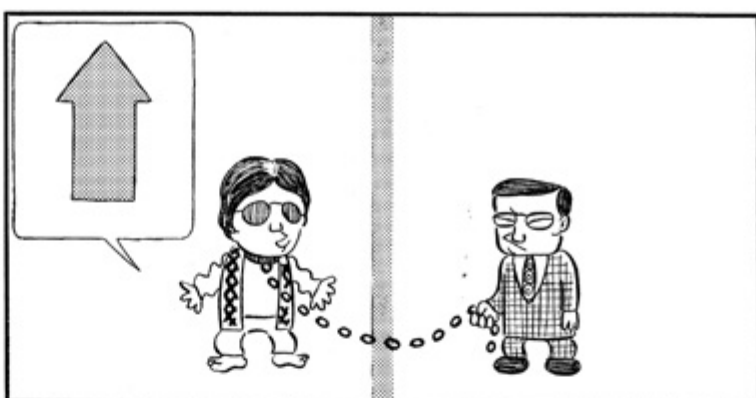
おつただくふ

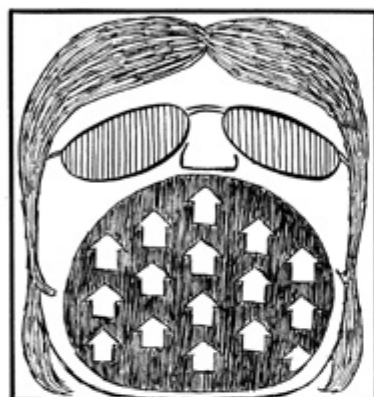
五月雨。

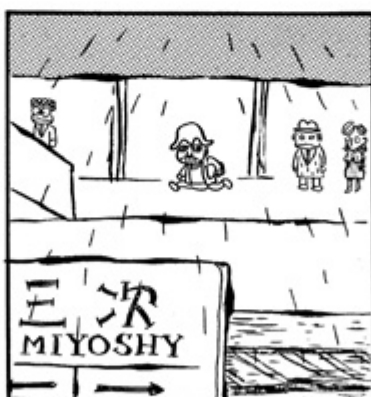
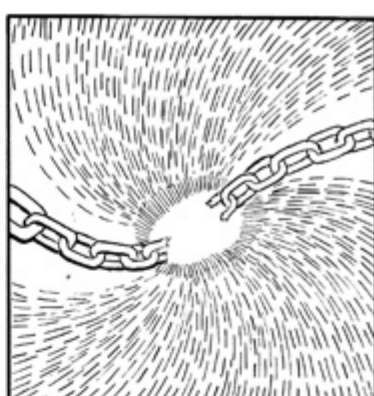
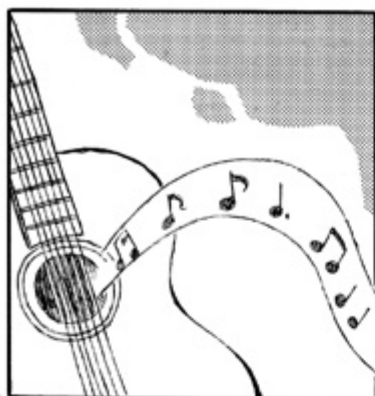


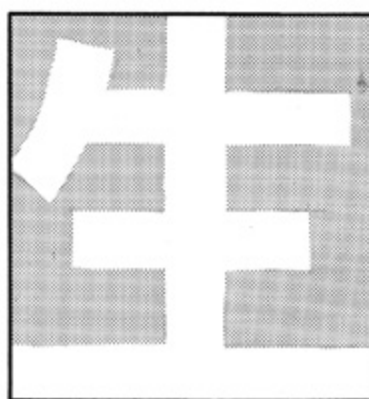
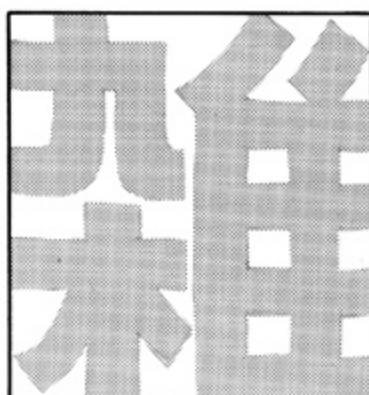




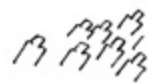
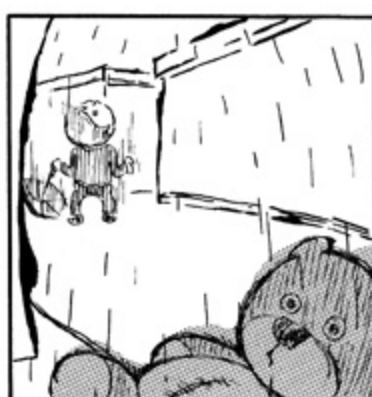
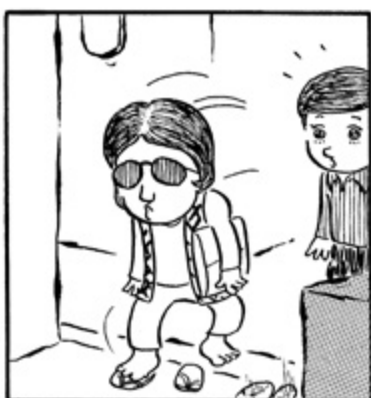
















完。

